

公立八鹿病院組合病院経営強化プランの概要

《 病院経営強化プランの趣旨 》

公立八鹿病院組合では、総務省からの要請に従い「病院改革プラン」を策定してきたが、病院経営は依然として厳しい状況にある。今回新たに「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」が総務省より示された。これまでの再編ネットワーク化ありきの病院改革ではなく、機能分化・連携強化を主軸とした経営の強化により、持続可能な医療提供体制の確保を目指す「病院経営強化プラン」の策定が求められており、このガイドラインに則った計画を策定する。

《 計画期間 》

ガイドラインに則り、2024～2027年度の4年間とする。ただし、保健医療計画（兵庫県）の改定や医療需要の分析等により計画期間内に内容を見直す場合もある。

《 地域の状況と組合の課題 》

但馬地域では、人口減少により外来患者は減るが、高齢者の増加に伴い入院患者は微増と推計。一方で組合の主な診療圏である養父市・香美町・朝来市に絞った場合では、入院・外来ともに患者減少の見込み。ただし、75歳以上の患者は増加が見込まれるため、この需要に応じられる医療提供体制の構築が必要。

医師不足に加え、昨今では看護師不足が深刻な問題となっている。今後も生産年齢人口が減少するため働き手の確保は一層困難となるが、医療需要の減少はわずかであるため、この課題はより厳しいものになる。近年では八鹿病院の救急応需率が低下しており、但馬地域全体の救急応需状況の悪化に繋がっている。

《 病院経営強化プランにおける組合の方針 》

（1）役割・機能の最適化と連携の強化

○ 地域医療構想等を踏まえた役割・機能

【八鹿病院】

2025年時点の地域の医療需要等が示された地域医療構想（兵庫県）の公表以降、病床規模・機能の見直しを進め、回復期機能の強化や急性期病床の稼働率向上、医療人材の有効活用に繋げた。地域医療構想が終了する2026年度以降に向けては、地域の医療需要の分析を進め、今後も一層ニーズが高まる回復期医療や在宅医療の応需体制強化に向けた規模・機能の見直しについて検討を進める。

救急医療については、西南但馬地域における二次救急医療機関の中心的役割を担い、三次救急医療機関との適切な役割分担により但馬地域全体の救急医療を支える。

【村岡病院】

地域の医療需要に応じられるよう病床規模・機能を見直した結果、現在では42床全てを回復期機能病床としている。地域医療構想の達成に向けて、現在の規模・機能の維持に努めるとともに、ポスト地域医療構想に向けた医療需要の分析により、最適な規模・機能の検討を進める。

○ 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

【八鹿病院】

今後も増加する後期高齢者への対応として、回復期病床の機能強化を図るとともに、訪問診療の実施に向けた検討を進める。また、高齢者に多い疾患への応需体制の強化や、認知症の早期発見と予防に向けた取組みを積極的に行う。養父市が進める社会的処方取組みに対し組織的な役割を担うとともに、地域との関わり合いの充実に向けた活動を実施し、地域に開かれた病院を目指す。

【村岡病院】

在宅療養支援病院として、往診や訪問看護を24時間365日で実施できる体制を維持し、地域において在宅医療の中心的な役割を担う。地域密着型の病院として、患者が望む最期を迎えることができるよう、アドバンスケアプランニングの活動を推進する。

○ 機能分化・連携強化

【八鹿病院】

二次救急医療機関としての役割を果たすことで三次救急医療機関である豊岡病院との役割分担を図り、但馬地域の課題である救急応需体制の強化に繋げる。高度急性期病院との連携により回復期機能を強化し、急性期・回復期・慢性期医療の提供体制を維持することで、但馬地域の医療提供体制の確保を図る。

【村岡病院】

全病床が回復期機能であり、既に機能分化が図られている。地域の急性期後の患者受入れの役割が果たせるよう、急性期病院や診療所等との連携強化に努める。

○ 一般会計負担の考え方

適切な経費負担のもとで不採算医療を提供する、公立病院としての役割を果たす。

（2）医師・看護師等の確保と働き方改革

兵庫県養成医師等の若手医師から選ばれる病院を目指すため、指導医の増加を図る。総合診療医や回復期を担う医師や技師の充実に努める。

看護師の離職防止対策について重点的に取り組むほか、看護師修学資金制度の拡充を検討する。

（3）経営形態の見直し

現行の経営形態を維持する。ただし、今後の経営状況等により、現行の体制維持によるデメリットが大きくなる場合には経営形態のあり方を再検討する。

（4）新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

人材の育成や物品の適切な備蓄等により、現在の役割や体制が維持・強化できるよう努める。

（5）施設・設備の最適化

老朽化が進む老人保健施設・看護専門学校に係る最適化の方針を2027年度までに決定する。休床中の八鹿病院36床のあり方については、早期に方針を決定し2027年度までに方針の実行を目指す。

引き続き医療ICTの活用を推進するほか、オンライン診療の導入に向けた検討を進める。

（6）経営の効率化等

ガイドラインに従い、「計画期間内の経常黒字化」を方針とした目標を設定し、計画の実行を目指す。

《 病院経営強化プランの点検・評価・公表 》

「公立八鹿病院組合経営強化プラン策定評価委員会」により点検・評価を行う。計画の達成状況によっては計画の見直しを委員会にて検討する。